

古銭購入に関連した詐欺にご注意

Q 名義を貸すことを了承したら違法行為といわれ、お金を送ってしまった
その後連絡が取れないが、お金は返ってくるのだろうか？

古銭業者を名乗る人から電話で「パンフレットが届いた人に古銭を買う権利があるが、買わないなら買いたい人に名義を貸してほしい」と言われた。「名義だけなら」と思い了承したが、後日別の業者から電話で「あなたが古銭を購入したことになっているが、その行為は違法になる。このままだと訴えられるが、お金を支払えば穏便に解決

できる」と言われた。

「訴えられたら困る」と思い、50万円を宅配便で送ったが、数日後、同じ業者から「名義を換えるため」「立て替えた分は返す」などと言われ、さらに100万円を送るよう要求された。後日業者に電話をしたが、つながらず連絡が取れない。お金を返してほしい。

A 一度支払ったお金を取り戻すことは困難です
おかしいと感じたら「すぐに」電話を切りましょう

「名義を貸して」「代わりに買って」「宅配便などでお金を送って」といった不審な電話は、すべて「買え買え詐欺」です。相手にせず、すぐに電話を切りましょう。業者とやりとりしてしまっても、話をうのみにせず、絶対にお金を支払わない

てください。

トラブルにあう人の多くが高齢者です。トラブルを未然に防ぐため、日ごろから家族やホームヘルパーなど、身近な人が本人の様子や居室の変化などに気をつけましょう。

お問い合わせ

消費者ホットライン ☎ 188 久留米市消費生活センター ☎ 0942-30-7700 福岡県警察 ☎ 110 または # 9110



を届けてください！

広報紙を読んだ感想や今後取り上げてほしい記事、広川町への思い、町に対する質問・意見・提案などをお送りください。イラストや写真も大歓迎です。

☎ 協働推進課まちづくり係
☎ 0943-32-1196

必須 担当課からの回答を希望するか、希望しないか、以下のいずれかを○で囲んでください

希望する ・ 希望しない

名前 (回答を希望する場合は **必須**)
フリガナ

住所 (回答を希望する場合は **必須**)
〒

電話番号 (回答を希望する場合は **必須**)
() -

年齢 **任意**

性別 **任意**

郵便はがき

〒 834-8790

<受取人>
日本郵便株式会社
広川郵便局私書箱第3号

広川町長 行



今月号の良かった記事とその理由を教えてください

料金受取人払郵便

八女局承認

824

差出有効期限
令和4年5月
31日(切手不要)

7月のイベント

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、自宅で検温し、マスクを着用してご参加ください。体調が悪いときは、参加を見合わせましょう。



各種イベントは延期・中止する場合があります。問い合わせ先へたずねるか、町ホームページをご覧ください。

■貯筋体操

日時 1日・8日・15日・29日(休)
14:00～15:00 (13:30 開場)
場所 「はなやぎの里」3階多目的ホール
☎高齢者支援係 ☎0943-32-1113

■児童向けおはなし会 (12ページ)

日時 3日(土)・25日(日)、10:30～11:00
場所 広川町立図書館内「お話しの森」
☎広川町立図書館 ☎0943-32-1163

■日曜窓口開庁

日時 4日(日)、8:30～12:00
場所 広川町役場 (一部の窓口業務のみ)
☎人事・法制係 ☎0943-32-0106

■郷土史研究会「授産事業と紅茶」

日時 10日(土)、19:30～21:00
場所 古墳公園資料館2階研修室
☎生涯学習係 ☎0943-32-0093

■乳幼児向けおはなし会「かっちんこ」(12ページ)

日時 14日(休)、10:30～11:00
場所 子育て支援センター「ハグハグ」
☎広川町立図書館 ☎0943-32-1163

感染対策しながら地域のために

広川町や近隣市町村の住宅、スーパー、事業所などから出るごみを収集する「吉永商店(株)」。コロナ禍であろうと、その業務を欠かすことはできません。

吉永商店(株)は「自分たちの身は自分たちで守る」をモットーにしっかり感染対策しながら作業しています。ごみを収集する際は目の粘膜から感染する危険があるため、ゴーグルを着用。防塵マスクや手袋も着用しています。感染対策しながらの作業は、夏場や梅雨時期は特に暑く

息苦しいため大変とのこと。しかしこういった細かい対策の積み重ねが、自分たちの身を守ることにつながっているようです。

吉永商店(株)の社員からは「ウイルスが付着したごみがどこで出ているかわからないため、恐怖心や危険を感じることがあります。そんな中、住民の皆さまから励ましの声やお礼の手紙を頂くこともあり、社員一同心の支えになっています。今後も住民の皆さまのためにがんばります」という声がありました。

